氏　名 (本籍)	荒川　千登世 (福井県)
学 位 の 種 類	修　士 (看護学)
学 位 記 番 号	修 士 第　74 号
学位授与年月日	平成18年3月24日
学 位 論 文 題 目	一泊入院にて乳房切除術を受ける患者の手術後における音楽のリラクセーション効果の自律神経系活動を指標とした検証

別紙様式３

論　文　内　容　要　旨

※整理番号	76	(ふりがな) 氏　　名	あらかわ　ちとせ 荒川　千登世
修士論文題目	一泊入院にて乳房切除術を受ける患者の手術後における音楽のリラクセーション効果の自律神経系活動を指標とした検証		

【目的】

一泊入院で乳房切除術を受けた患者の術後の身体の回復と不安などの心理的ストレスの緩和に音楽が有効であるかを、累積副交感神経活動値を指標として検証する。あわせて、STAIによる不安の変化を評価する。

【方法】

研究方法:　量的研究、準実験研究

対象:　京都大医学部附属病院第二外科において一泊入院で乳房切除術を午前中に受ける患者で、手術前に研究への参加の同意が得られた患者を研究参加者とし、コントロール群6名、実験群8名のデータを得た。

評価項目:　累積副交感神経活動値とSTAI

手順:　手術当日の朝9:00から翌日朝8:00までの心拍を携帯型の心拍計に集積した。
夜20:00頃と翌朝8:00の2回、STAIを記入していただいた。
実験群には、当日の夜20:00頃から、45分間、臥床の状態で、ヘッドフォンを通して音楽(童謡や唱歌などのオーケストラ演奏)を聴いていただいた。

累積副交感神経系活動値の解析:
心電計に集積されたR-R間隔のデータを、10分毎に、粗視化スペクトル法(CGSA法)を用いて解析した、全パワーに対する高周波成分のパワーの比を副交感神経活動値とした。
また、この副交感神経活動値の時系列曲線を積分したものを累積副交感神経系活動値とした。累積副交感神経系活動値は、手術当日9:00から翌朝8:00までの23時間のものと、手術当日9:00から翌朝5:00までを4時間毎に5つの時間帯に区切って累積したものとを用いた。

倫理的配慮:　本学の倫理委員会に、平成15年9月に承認を得た(受付番号15-26)。
京都大学医学部附属病院には、看護部長、副看護部長、関係する診療部門の看護師長に文書と口頭にて説明し、承認を得た。
患者には、研究者から本研究の主旨を文書と口頭にて説明し、同意書に署名を得た。

【結果】

1. 翌朝までの累積副交感神経系活動値は、翌朝8:00までにおいても、翌朝5:00までにおいても、コントロール群と実験群との有意差はなかった。
2. 4時間ごとの累積副交感神経系活動値の比較では、同一時間帯におけるコントロール群と実験群との差は、夜間1:00までは有意差はなかった。1:00～5:00では、有意差はなかったが、若干の傾向がみられた($p=0.093$)。
3. コントロール群における4時間ごとの累積副交感神経系活動値の変化は、夜の休息の時間帯に上昇し、睡眠の前半においてもやや上昇したが、睡眠の後半に低下した。
4. 実験群における4時間ごとの累積副交感神経系活動値の変化は、音楽を聴いた夜の休息の時間帯に低下し、睡眠の前半において上昇し、睡眠の後半にさらに上昇した。
5. 4時間ごとの累積副交感神経系活動値のコントロール群と実験群の群間変動と群内変動は、13:00以降の4つの時間帯で交互作用が認められた($p=0.040$)。
6. コントロール群では、特性不安も、状態不安も、手術当日の夜と翌朝との有意差はなかった。
7. 実験群では、特性不安は、手術当日の夜と翌朝との有意差はなかったが、状態不安は翌朝に低下し、有意差が認められた($p=0.042$)。

【考察】

一泊入院で乳房切除術を受けた患者の術後の身体の回復と不安などの心理的ストレスの緩和に音楽が有効であることが確認された。

(備考)　１．研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
２．※印の欄には記入しないこと。